

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会

木製サッシの要望で成果

「防音性能が確保できる」

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(原口博光会長)はこのほど、要望活動の経緯と実績について報告、会員である日本の窓と東京組が要望していた木製サッシの利

用拡大に関する要望について「満足できる成果があったことを公表した。」

「技術進歩、社会経済情勢の変化に対応していく観点からも、今後、必要

な防音性能が確保できることを前提に、素材に関わらず使用可能とするよう建具仕様の改定を検討したい」とする回答を得られた。

日本の窓は国産材を使った木製サッシ工場を青森に造り、防音性に優れた木製サッシを製造して

両社は国土交通省に対して、航空局の騒音対策として学校等公共施設、民家の防音工事の補助金制度に木製窓を追加することを要望していた。これに対して国交省から

「防音性能が確保できることを前提に、素材に関わらず使用可能とするよう建具仕様の改定を検討したい」とする回答を得られた。

日本の窓は国産材を使った木製サッシ工場を青森に造り、防音性に優れた木製サッシを製造して

いたが基準がなく、関係省庁から採用の対象外されていた。同社代表の中間野渡利八郎氏は「私どもの木製サッシが防音・防火の認定を受け、これを契機に普通の工務店が普通に利用できる木製サッシの普及を目指したい」と喜びを語った。

昨年11月に木の総合文化・ウッドレガシーを推進する議員連盟(衛藤征士郎会長)が出席して同推進協議会による要望活動発表会が行われ、木製サッシをはじめとした要望を提出、12月に各省庁

から39ページにわたる回答書が提出された。